



東林山 法雲寺

〒667-1311兵庫県美方郡村岡町村岡2365

TEL:0796-98-1151・1161 FAX:0796-98-1168

# 法雲寺報

<http://www.houun.net> Eメール: [kouryu@houun.net](mailto:kouryu@houun.net)

## 「お彼岸」と「太陽」

今年の冬は大雪はなかったのですが、3月に入っても境内はまだ大量の雪があふれています。冬の間分散して満遍なく降ったのでしょうか？雪解けの春が待ち遠しく思えますが、あと一息。「暑さ寒さも彼岸まで・・・」です。

春分(秋分)の日を「中日」と言い、その「中日」を中心に前後3日の一週間を「お彼岸」と言っています。「お彼岸」と言えば、「おはぎ」(牡丹餅)に「お墓参り」がつき物で、仏教行事の一つとされていますが、「お彼岸」という風習は日本独特のものようです。

ご存知のように「中日」には真東から太陽が昇り、真西に沈みます。また、昼と夜の長さが同じです。このあたりの理由から真西に沈む夕日に西方極楽浄土を連想したり、昼(明・生)と夜(闇・死)とが釣り合うことから、この世(此岸)とあの世(彼岸)との境目が薄ボンヤリする。また季節も極楽のように心地良い日があることなど様々な「微妙なバランス」とあいまって仏教で言う中道や涅槃の境地に通じているのかも知れません。

しかし、これらの仏教的な考えはどちらかというと、後から(江戸時代以降?)付け加わった物かと思えます。彼岸という風習が仏教に由来する物であれば、インドや中国、朝鮮に似たような風習がある筈ですが、見当たらないようです。多分、仏教の一般化以前から行われていた日本独自の風習に、仏教的な考えが後から付け加わって、日本仏教特有のお彼岸の風習になって現在まで続いているのだと思います。

仏教以前のお彼岸とはどんな物かと想像しますと、多分「太陽の信仰」が基本になっていたかと思えます。今でこそ工業国となっている日本ですが、それも戦後60年の間のこと、それ以前は弥生時代に遡るまで、ほとんどの人々が農業に携わる農業国であり、日本人は農耕民族であったわけです。農業を行う場合の関心事は水や土地であるかも知れませんが、それ以上に「お日様」の存在には重大な関心があったでしょう。

秋分の日を境に日照時間は冬至に向かってだんだ

んと短くなり、冬至を過ぎると日照時間は少しずつ回復し、春の彼岸で釣り合い、夏至で最長になります。その後は秋の彼岸を境に夜が長くなる。現代の我々にとっては当たり前のことの繰り返しのように思えますが、昔の人にとっては太陽(日照時間)の衰退は農業や生活を左右させる重大関心事です。ですから太古の昔から日本人は秋の彼岸では太陽の復活を祈念し、春の彼岸では太陽の復活をお祝いしたのだと思います。太陽の復活を「祈念」し「お祝い」した相手は高貴な神様ではなく、子孫に伝わる田畑を開いてくれた身近な御先祖(祖神)であった筈です。

こんな素朴な農業神信仰の祭事が時代が下るに従って仏教的な要素と渾然一体となって、現代に繋がるお彼岸の形式が始まったのではないのでしょうか？

昔の人々が千年・二千年掛けて様々な要素を組み合わせ積み重ねてきたことですので、簡単に答えが出ることでもありませんが、お彼岸に関して上記のような考え方も出来るのではないのでしょうか。

さて、すっかり工業国となってしまった日本で今更「お日様の力が・・・」なんて言っても余り意味が有りませんが、昔の人は自然の営みや流れについて鋭い観察力を持ち、自然の中で生かされていることを自覚して日々を営んできました。しかし、今の我々は自然を「資源」と考え如何に効率よく自然から資源を絞り取るのみを考えてきました。その結果が大きくは地球温暖化であり、近くは荒廃した田畑や山林、汚染された環境です。

どんなに技術が発展しても我々は自然の中にしか生活できません。自然の流れや人々の素朴な心情に即した昔からの伝統や風習を非科学的・迷信と否定する事は簡単ですが、その根底には我々が忘れていた人間本来の感覚に即した自然との対話が存在している様な気がします。



どんな山奥にも春は巡ってくる。

天台宗開宗千二百年慶讃記念事業

「縁側のガラス戸交換・山門瓦葺替え」事業のご報告

昨年、実施致しました「縁側のガラス戸交換・山門瓦葺替え」事業ですが、にわかな申し出にも関わらず檀信徒の皆様には実状を良くご理解頂き、多くの皆様からご協力を賜りましたこと、深くお礼申し上げます。皆様のご協力によりまして、山門瓦葺き替えにより門前からの趣きも引き締め、また、風が吹くたびにガタガタと軋んでいたガラス戸から、サッシに交換していただき、本堂及び奥の間の廊下も明るく、暖かく、開閉もスムーズに出来るようになりました。ご協力誠に感謝申し上げます。

ご報告が遅れています今回の記念事業会計ですが、事業関係の支払いも終わり、ご協力金の納入も一段落いたしましたので、ここに決算状況のご報告を致したいと思います。会計面もご協力のお陰を持ちまして、幾分かの残高を残し会計を閉じる事が出来そうです。

以下に今回の事業の範囲及び状況などをご報告させていただきますので、お目通し頂きたいと思えます。尚、残高に関しましては檀信徒会の財産会計へ繰り入れ、今後の備えといたしたいと考えています。

改修工事の仕上がり状況

実物をご参拝の折にご確認下さい。



取替以前のガラス戸



改修後の本堂正面側



奥の間廊下・外観



明るく静かになった奥の廊下



新瓦がまばゆい山門



今回新設した芳名額



屋根裏部屋壁紙張替え



大掛かりな工事に加えて事業会計より「本尊前常華一對」「法雲寺マッチ」及び冬期、来客をお出迎えする昔懐かしい「ダルマストーブ」などの各種備品等も整備させて頂きました。

## 山名蔵収蔵品ますます充実

昨秋に「比翼の鶴」など貴重な収蔵品を寄進して頂きました濱田家様から更に文化財級の美術品の寄進を頂きました。今回は幕末まで村岡陣屋に飾ってあった唐獅子と、中国・明(1368～)官窯の華瓶一對を奉納くださいました。

今後、これらの貴重な文化財の有効な活用を心掛けて行かねばならないと感じています。

山名蔵では2階を「濱田記念室」として、今までご寄進いただいた美術品と併せて展示を行っております。



村岡陣屋調度品の唐獅子



高さ120cmある極彩色の華瓶一對。



「大明万曆年製」の文字が見える

## 彼岸会について・・・ご希望の方、ご自由にお参りください。

今年の春のお彼岸は3月17日より3月23日までの一週間となります。このお彼岸中は毎晩午後7時半より30分程度、本堂にて簡単なお勤めを致しております。ご参拝希望の方はご自由にお参り下さい。

越し下さい。

また、お墓参り等でお越しの際に、読経をご希望の方はお声掛け下さい。

春季彼岸会: 3月17日～23日

時間: 午後7時半～8時頃

お彼岸中、一度でも結構ですし、七夜連続でも結構です。お時間の御座います方はご遠慮なくお

ご自由にお勤めにご参加下さい。

(尚、3/20は婦人部の皆さんの参拝日です)

## 特別寄進のご報告

### ご協力誠に有難う御座います。



ここまで水没

浸水にあった土蔵。水深約5メートル位?

「便利さ」ばかりを追求する生活も曲がり角に来ているのかも知れません。

「伊勢湾台風でもこんなことは無かった」とか。強烈な集中豪雨に見舞われたのでしょうか、堤防も昔とは比べ物にならないほど立派に改良されているのにも関わらずです。「自然の力は凄い」のは当たり前ですが、それ以上に今まで自然を好き勝手にいじくり回したツケが回り回って人間に帰って来たように思えます。

昨秋10月、但馬地方を襲った台風23号の猛威には驚かされた方も多かったと思います。幸い村岡では大きな被害は無かったのですが、円山川水系では堤防を越える増水に見舞われた地域も多く、同じ天台宗の進美寺がある日高町赤碓では深いところで5メートルの浸水に見舞われ、二階の天井裏に逃れ何とか命が助かった方もおいでです。片付けに赴いた折に進美寺の総代さんにお聞きすると「伊勢湾台風でもこんなことは無かった」と